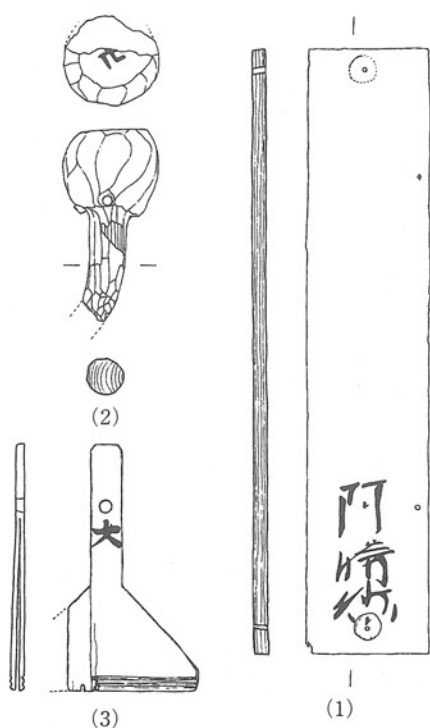




(3) 「大」

146×(78)×5 061

(1)は完存に近い板材で上下に留めた孔が認められる。右側側部にも穴が二カ所存在する。(2)は栓の頭部に卍の記号が墨書されている。頭部が大きく断面は円形である。(3)は刷毛本体で、ハケ部は残存していない。柄中央に円孔があり、その下に墨書で記されている。刷毛は縦方向に割って挟み込むものである。

9 関係文献

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『平成一一年度年報』(二〇〇〇年)

明石市教育委員会『平成一一年度文化財年報』(二〇〇一年)

(渡辺 昇〈兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所〉)

兵庫県城崎郡日高町発行

『但馬国府と但馬国分寺』

—発掘調査からその謎に迫る—の刊行

但馬国府・国分寺の発掘調査成果をビジュアルにまとめた『但馬国府と但馬国分寺 —発掘調査からその謎に迫る—』が、木簡学会但馬特別研究集会にあわせて刊行された。遺構・遺物の写真・解説の他、古地図などの関係資料も総合的に集められている。木簡もカラー写真で多く所収され、墨書土器の写真も収められている。

A4版 総カラー六四頁 二〇〇二年七月刊行

頒価二二〇〇円(送料三一〇円)

申込先

日高町教育委員会社会教育課

兵庫県城崎郡日高町祢布九二〇

TEL 〇七九六―四二二―二二(代)

FAX 〇七九六―四二二―二〇二四